

Title	磯部喜一編 中小企業の経済・経営・労務：中小企業叢書VIII
Sub Title	
Author	佐藤, 芳雄
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1963
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.56, No.3 (1963. 3) ,p.292(94)-
JaLC DOI	10.14991/001.19630301-0094
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19630301-0094

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

て、貨幣的利子理論を分析してみると、第二と第三のタイプの利子理論の相違は、結局、可变的貨幣賃金と固定的貨幣賃金の仮定の相違に帰着することがわかるであろう。

ルツツは、そこで、第二のグループにおける投資過程の洗練された分析の成果を利用して、可变的ならばに固定的貨幣賃金の場合について、利子理論の分析をすすめるれば、一つの体系に、三つのグループを融合することができる。後半の利子理論の構築は、この方向にすすめられている。だがこの書の興味ある部分は、後半の彼独自の理論展開よりもむしろ、前半の利子理論批判史にあることを最後に指摘しておきたい。(巖松堂・昭和三十七年六月刊・B6・三六六頁・五二〇円)

— 松浦 保 —

磯部 喜一編

『中小企業の経済・経営・労務』

— 中小企業叢書VIII —

日本学術振興会第一一八(産業構造・中小企業)委員会(委員長・山中篤太郎)の研究報告であり、すでに公刊されてきた中小企業叢書のVIII巻である本書は、委員村本福松博士

古稀祝賀記念論文であり、中小企業の経済理論・経営・労務・中小工業・中小貿易・商業についての十一論文を集めたものである。その論文と筆者はつぎのとおりである。

- 一、中小企業の上限——その量的な範囲画定をめぐって——(山中篤太郎)、二、下請制における商業資本的性格について(藤田敬三)、三、スモール・ビジネス問題と中小企業問題(滝沢菊太郎)、四、中小企業経営管理の基本問題(小林靖雄)、五、中小企業における在庫管理の近代化(末松玄六)、六、中小企業の労務管理の特性(美濃口時次郎)、七、中小企業の労使関係(田杉競)、八、機械すき和紙業の問題点(細野孝一)、九、雑貨輸出の配給経路——中小輸出商社の機能補論——(藤井茂)、十、日本小売商業の構造(荒川祐吉)、十一、小売店の協同的自主運動(磯部喜一)。

このような諸論文を集めた本書は、事実上各個独立した論文集であって、多少総花的でもあり、その内容を簡単に紹介することは紙幅上困難である。全体を通しての特徴をあえて一言でいうならば、いずれも、広範な裾野をもちまた今日大きな変動を示している中小企業問題について、理論的あるいは現状分析的にさらには経営実践にそくして、今日的

問題意識で鋭い問題提起をされていることといえよう。

とくに、中小企業を他企業と区分する可能性としての「質的条件」を、第一に資本の経済計算、第二に適度組織化、第三に追加資本獲得力の三点に求め、質を反映する量的区分、大企業と中小企業を分つ線、中小企業の上限をさぐる山中教授の論文はきわめて示唆にむくものである。また、小宮山琢二氏との「論争」について、下請制の過去の諸事実とそれのその後における発展の結果の確認によって、両者の見解の意味づけをされ、さらに下請制の本質についてより明解に所論を示された藤田教授の論文は、今後の下請制の本質究明に光明を与えるであろう。そのほか、小売業の構造・問題点を統計分析を通して簡潔に示された荒川論文をはじめ、それぞれ今日の中小企業問題を理解するうえできわめて有益であるといえる。(有斐閣・昭和三十七年一〇月刊・A5・二三三頁・八〇〇円)

— 佐藤 芳雄 —